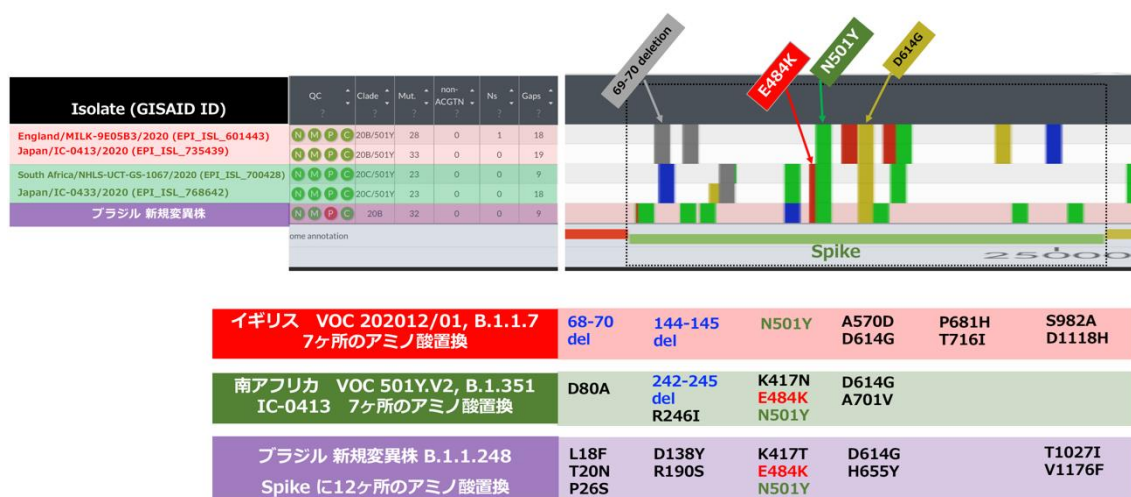


国立感染症研究所、ブラジルからの帰国者から新型コロナウイルスの新規変異株を検出

2021年1月6日、国立感染症研究所は、1月2日にブラジルから到着した渡航者4名から新型コロナウイルスの新規変異株を検出した。

当該新規変異株は、B.1.1.248 系統に属し、スパイクタンパクに 12 箇所の変異を認める。感染性の増加が懸念される変異株の VOC-202012/01 や 501Y.V2 と同様に、スパイクタンパクの受容体結合部位に N501Y 変異を認めるほか、501Y.V2 と同様に E484K 変異を認める。



E484 の変異は、SARS-CoV-2 を中和するモノクローナル抗体からの逃避変異として報告されていた。さらに、E484K 変異が、回復者血漿からの逃避変異株で見られるという実験データと E484 が変異すると回復者血漿でのシュードタイプウイルスの中和抗体価が 10 倍程度低下する (COVID-19 回復者の血清中に誘導された抗 SARS-CoV-2 抗体の存在下でも、in vitro (試験管内) でウイルスの細胞感染を抑制しにくい) という実験データが報告されている。すなわち、これまでのウイルスに対する免疫は、E484 変異を持つウイルスに対して効果が減弱する可能性が懸念されている。

ブラジルでは、B.1.1.248 系統の E484K 変異を認める変異株による再感染症例の報告がある (2021/01/06) が、当該新規変異株と同一ではない。

当該変異株については、遺伝子の配列に関する情報に限られている。ヒトにおける感染性や病原性、検査法への影響、ワクチンへの影響等については、現時点での判断は困難であり、引き続き調査が必要である。

変異株であっても、個人の基本的な感染予防策は、従来と同様に、3密の回避、マスクの着用、手洗いなどが推奨される。

日本語原文

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10107-covid19-33.html>